

故 阿久澤先生を偲ぶ

杏林大学総合政策学部長

北 島 勉

2020年6月13日に阿久澤利明先生が他界された。享年69歳であった。

阿久澤先生は、1980年に慶応義塾大学大学院法学研究科博士課程修了後、慶応義塾大学法学部他、いくつかの大学での非常勤講師を務められた後に、1984年に杏林大学社会科学部創設とともに講師に就任された。1988年に助教授、1994年に教授に昇任され、2016年に杏林大学を定年退職されるまで、教務部長やハラスメント防止対策委員長など要職を歴任された。また、杏林学園の理事や評議員としても活躍され、総合政策学部及び杏林学園の発展にご尽力いただいた。

研究では、民法を専門とされており、特にゲールケ以降のドイツの団体法論の研究を日本に紹介するとともに、日本における法人制度に関する研究の進展に貢献をされた。ドイツの研究者との交流も盛んに行われており、ドイツの民法や労働法についても日本に紹介された功績がある。2015年にはペーター・ハナウ＝クラウス・アドマイト著の“Arbeitsrecht”の第14版を手塚和彰千葉大学名誉教授とともに翻訳される（『ドイツ労働法〔新版〕』）など、精力的に研究をされておられた。阿久澤先生は、逐一、ドイツ語で書かれた原典にあたり、ドイツ団体法研究の歴史を紐解かれていたと伺い、分野は異なるが外国を対象地域として研究をしている者として、その研究姿勢には敬服する次第である。定年退職を迎える少し前から体調を崩されていたが、退職後にドイツを訪問し、現地の研究者と旧交を温める機会が持てたと伺っている。ドイツの研究者と歓談をしている阿久澤先生の人なっつこい笑顔が思い浮かぶ。

阿久澤先生のご指導ご鞭撻に浴してきた杏林大学の法学系の教員諸氏の論

文を集め、本号を追悼号として発刊することになったが、退職をされた方の追悼号を出すのは前例がなく、これも阿久澤先生のお人柄や在職中の教育研究における活発な交流があったが故であろう。

改めて阿久澤先生の長年にわたる総合政策学部へのご貢献に感謝するとともに、私たちは、学部をより一層発展させるために力を合わせることで先生の思いに応えていきたい。